

平成 25 年度

南三陸町の 魅力を活用した まちづくり 提言書・要望書



南三陸町復興計画推進会議

～目 次～

1. 提案までの道すじ.....	1
・復興への思いと不安、推進会議の検討テーマ ～第1回推進会議～	
・町の人口減少と人口増加策例 ～第2回推進会議～	
・「また来たい また住みたい」の種となる町の魅力と活用法 ～第3回推進会議～	
・町の魅力の活用法 ～第4回推進会議～	
2.町の魅力の活用提言書・要望書	5
★ 南三陸椿ものがたり提言書.....	6
★ みんなで健康「グラウンドゴルフ」提言書.....	10
★ 南三陸鮭的人材育成提言書.....	14
★ 南三陸「復興中もスポーツ」要望書.....	18

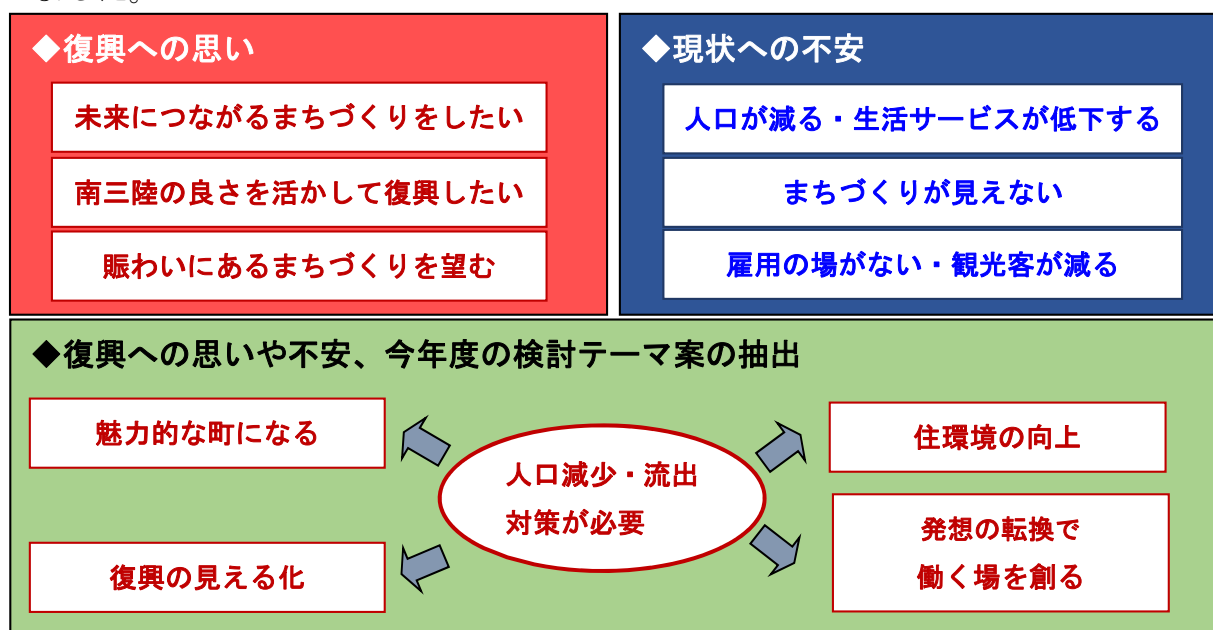
1. 提案までの道すじ ～平成25年度復興計画推進会議～

平成25年度の復興計画推進会議の主な検討の経緯を整理します。

- ・第1回推進会議：復興への思いや不安、今年度の検討テーマ案の抽出
- ・第2回推進会議：人口減少問題の検討
- ・第3回推進会議：人口減少・流出対策のための魅力の振り返り
- ・第4回推進会議：魅力の活用方法の検討
- ・第5回・第6回推進会議：魅力の活用企画書、要望書の作成

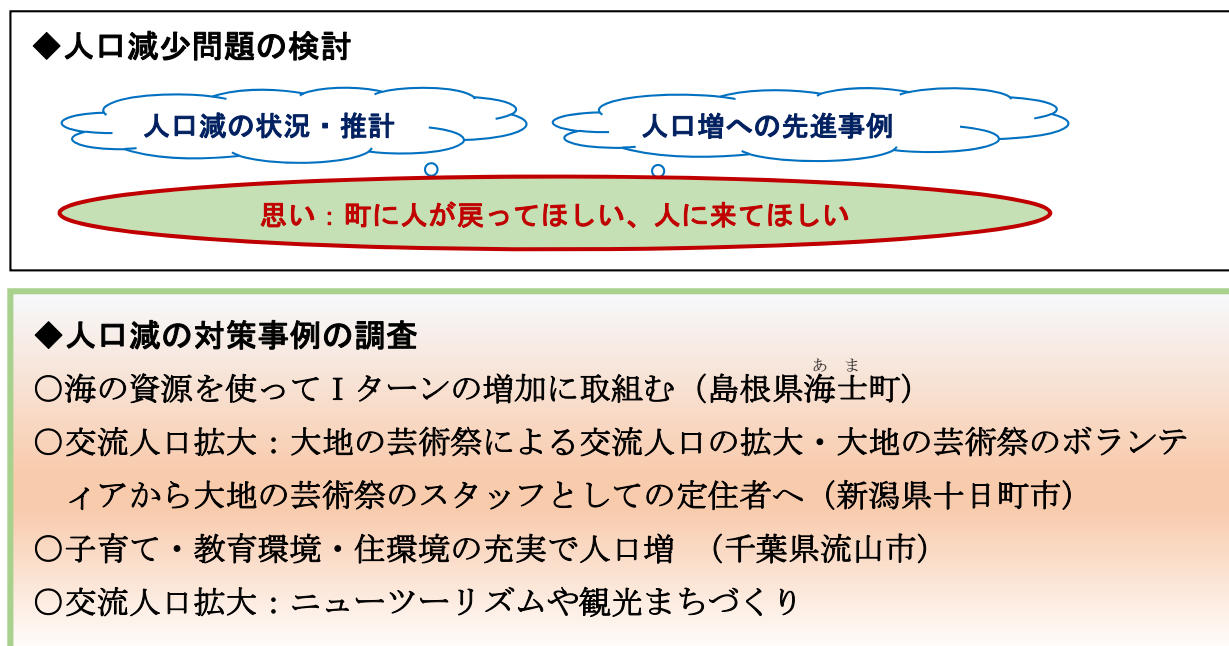
<第1回推進会議（平成25年9月）>

第1回推進会議では、町の復興への思いや不安、今年度検討していくテーマを話し合いました。



<第2回推進会議（平成25年10月）>

第2回推進会議では第1回会議の検討結果をもとに人口減少・流出の要因や問題について、事務局の提供資料をもとに話し合いをし、人口減対策事例を調べました。



<第3回推進会議（平成25年11月）>

第3回推進会議では人口減少や流出対策として「また行きたい（来たい）」と思ってもらう視点から南三陸町の魅力を振返り、魅力マップを各グループで作成しました。（**朱書きは提案につながった魅力です。**）

◆グループAのあげた町の主な魅力

○暮らし・住まう・食す

- ・たらすもず、めかぶ、ゆでだこ、自然食等
- ・手作り、お茶っこのみ文化

○自然、風景、歴史

- ・ **椿と関係する文化**
- ・ **川を上る鮭を見る子供（風景と人間が一体）**

○なりわい、繋がり、人

- ・おさかな通り、季節の祭り
- ・知らない人に声をかけるほっとけない文化

○その他

- ・森、里、海、人の命を学ぶ、原風景を残す



◆グループBのあげた町の主な魅力

○暮らし・住まう・食す

- ・地元で愛されていた食、地元産の食
- ・手作り漬物、お茶っこのみ

○自然、風景、歴史

- ・ **山、川、海、里山のちょうど良いサイズ**
- ・運動場や海水浴場の復活、海の魅力利用

○なりわい、繋がり、人

- ・ **子供からお年寄りが一緒にスポーツ・交流**
- ・南三陸の人の好き、外の人を受け入れ

○その他

- ・盛んなスポーツの場や潮風カフェの復活



◆グループCのあげた町の主な魅力

○暮らし・住まう・食す

- ・ **スポーツなどで繋がっていたコミュニティ**
- ・海と山を大事にする文化

○自然、風景、歴史

- ・海を望む夜景、伊里前の街並み、神割崎等
- ・海と山のつながるコンパクトな地形

○なりわい、繋がり、人

- ・漁師OBなどによる民泊と体験学習
- ・自分たちで施設を維持管理する仕組み

○その他

- ・生活景（海と山、祭、南三陸の風景）を残す



<第4回推進会議（平成25年12月）>

第4回推進会議では、「町の魅力」の活用方法を検討し、グループごとにまとめました。

<町の魅力と活用のアイデア：グループA>

朱文字：提言書を作成した町の魅力

魅力	アイデア名	どのようにする（活用の方法）
樁	南三陸 樁ものがたり	・塩害に強い特性を活かして、防潮林、避難路に樁を植える。 ・沿岸部に樁を植え、高台団地でなくなった緑を自然に還す。 ・樁を縁にして他町と交流する。
地名	地名で伝える防災	・地名に刻まれた津波への警告を伝え防災教育に活かす。（先人が残した地名が埋もれないように発信する。） ・地名で表す防災マップを作る。
縁側	えんがわで笑顔のお茶っこ	・お茶っこ文化を活かしてコミュニティ再生を手助けする。 ・仮設集会所で行政と町民のお茶っこ会を継続的にこない、つなぐ場をつくる。（たらすもづをここで出す。） ・お年寄りの見守りに役立てる。
鮭	鮭的人材育成	・町を離れてもまた戻ってくるような人材を育てる。 ・海の学校づくり。
果報団子	秘伝の果報だんご	・たらすもづ、秘伝の果報団子、海の体験などここにしかないものを作る。（規格品になることを避けるため商品化しない。）

<町の魅力と活用のアイデア：グループB>

朱文字：要望書を作成した町の魅力

魅力	アイデア名	どのようにする（活用の方法）
海・山の魅力	南三陸 キッザニア	・子供達が漁業など職業体験できる場所が少ないので増やす。 ・町内外の小学校が合同して親子体験交流を行う。 ・海・山の南三陸らしさを味わう。（入谷地区～海岸地区）
防潮堤を逆手	南三陸で健康づくり（海の隣でグラウンドゴルフ）	・グラウンドゴルフ場を宿泊施設のそばにつくり、ホテルと連携してシーフードバーベキューを行う。 ・防潮堤の斜面を利用して、海の見える場所で行う。 ・仮設の人と町外の人を呼びグランドゴルフ大会を行う。
海・山の地形	ツールド南三陸（サイクル・三輪車・マラソン）	・町内の各地区対抗の運動会を復活させる。 ・田束山マウンテンバイク大会に三輪車で登る大会を加える。 ・町内の復興を感じるため、町内をぐるぐる回る自転車のロードレースやマラソン大会を行う。 ・コース上にモアイ像を置く。
地場食材	町外の人を作る料理コンテスト	・四季折々で食材を使った祭りを開催する。 ・町内外の人が参加する料理コンテストを開催する。 ・南三陸の食材を使って町外の人に料理をしてもらうコンテストを開催する。 ・町の名物と（姉妹都市）など町外の名物を組み合わせた食のイベントをおこなう。

<町の魅力と活用のアイデア：グループC> 朱文字：提言書を作成した町の魅力

魅力	アイデア名	どのようにする（活用の方法）
盛ん だった ゴルフ	グラウンドゴルフ	・交流の場を作る大会を開催して人々の繋がりを回復する。 ・外で活動する機会を作る。 ・用具の貸し出しをしてだれでも参加できるようにする。 ・仮設住宅に一つ作っても良い。
盛ん だった スポーツ	(町主催) 運動イベント 開催	・目標となるイベントにして練習（運動）する機会を増やす。 ・ビニールバレー（ソフト）や卓球、グラウンドゴルフなどの大会があったので復活したい。 ・囲碁やスポーツマージャンなど（手を動かすもの）が健康に良い。
海の 資源	志津川湾巡り メカブ漁体験 ぶなの植林 いかだ見学	・今のボランティアや新人研修を継続してもらう仕組みを作る。 ・宿泊施設の準備が課題である。 ・体験に食事もつけ足してみるとよい。
街道 等の 歴史	南三陸フィー ルドワーク	・地形、暮らし、東浜街道等の歴史を現地の人が案内する。 ・地元の人と交流し、現地体験を提供する。

2.町の魅力の活用提言書・要望書

「町の魅力」の活用のアイデアの中から、「私たちの町に対する思いが特に強い、町民の皆さんが参加しやすい」などの視点からテーマを絞りこみ、「町の魅力の活用プラン」として提案します。

なお、「町の魅力」の抽出から魅力の活用プランを企画するまでの経過と今後のまちづくりへの展開イメージを示します。

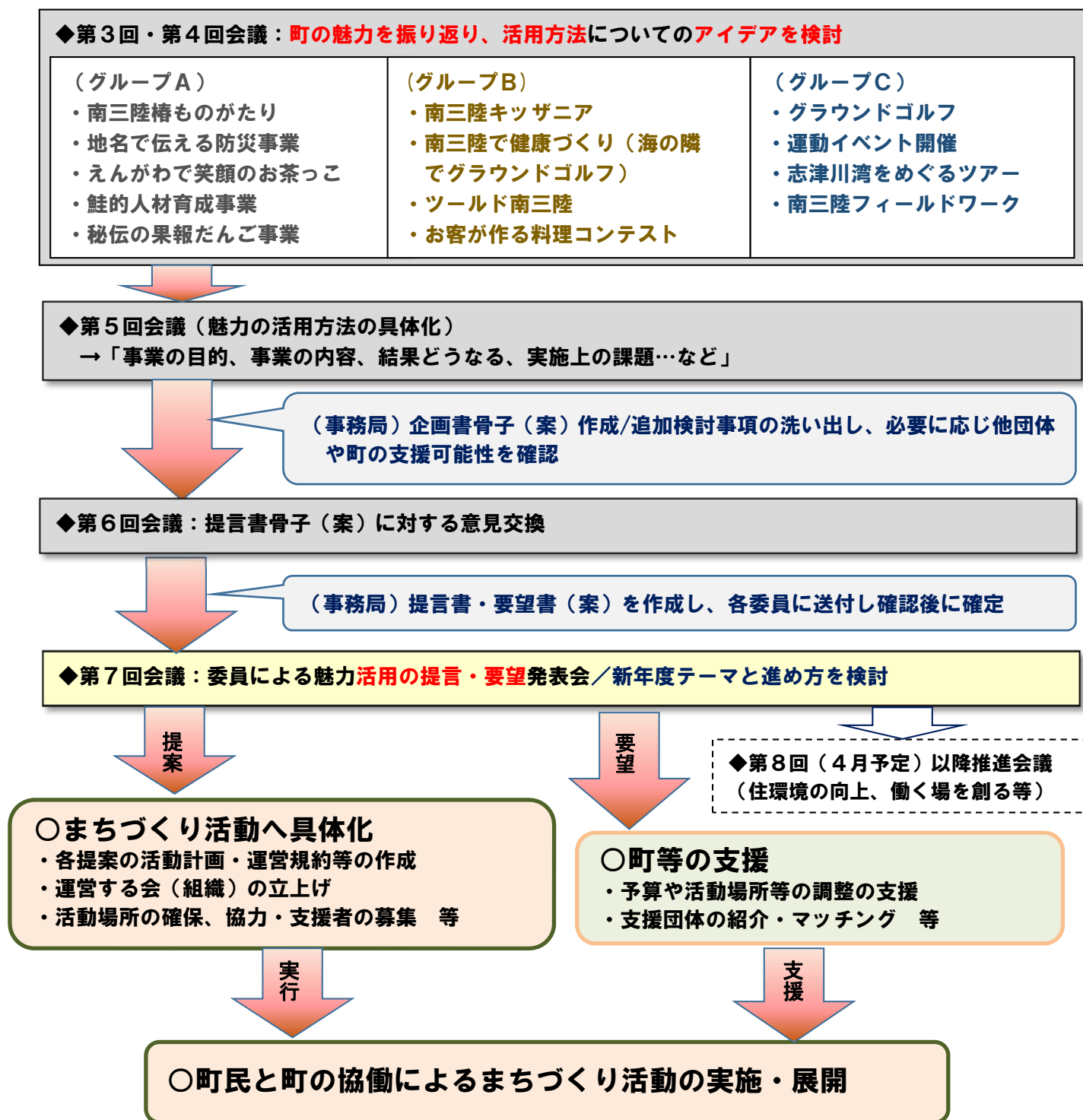


図 町の魅力の振り返りから提言・要望までの手順とまちづくりへの展開イメージ

☀ 南三陸椿ものがたり 提言書

提言の概要

●町の課題

- ・高台の森に住宅地を造成しているため、自然に負担をかけている。
- ・かつての中心市街地に、震災復興祈念公園を整備するが、植栽・管理は町だけでは困難。

★活用する魅力

- ・大津波の塩害で多くの樹木が枯れる中、椿は見事な花を咲かせた。
- ・被災地の三陸沿岸に根付いている椿を使った生活・文化の魅力の再確認

温暖な三陸沿岸一帯にある椿、三陸の生活・文化に深く根ざしている椿を、大津波にも負けなかったシンボルとして、交流事業や商品開発に役立てていく。

●提案の背景・思い

- ・大津波にも負けなかった椿を復興のシンボルとしていきたい。

●提案（活動）の目的

- ・椿を復興のシンボルとし、育てることで、高齢者には生き甲斐としてもらい、子どもたちには自然の大切さを学んでもらいたい。椿を通じて、町内外の方との交流を図っていく。
- ・山際に椿の避難路をつくり、未来の子供たちに私たちの思いを伝えてゆく。

●提案（活動）の概要

- ・椿を中心としたまちづくりのお茶会などから物語を広め、種ひろいやポット苗づくりなどの具体的な活動を展開し、その中で椿守を育成していく。
- ・仮設住宅等の方、町外の学校、ボランティアに協力を求める。
- ・椿の避難路に植樹をしてもらえるように、ボランティアのネットワーク化・組織化を図っていく。
- ・ゆくゆくは、活動に参加する人々のネットワークを使いながら、祈念公園などの植栽の維持・管理に協力し、町外の教育旅行に協力する。

●活動の中心となる人・団体

- ・大津波に負けない椿の力強さに感激した町民有志。
- ・椿守となって、この活動に参加する町内外の方、学校、ボランティア、NPO、企業等
※震災時にボランティアで来られた方にも、積極的に参加してもらえるように促す。

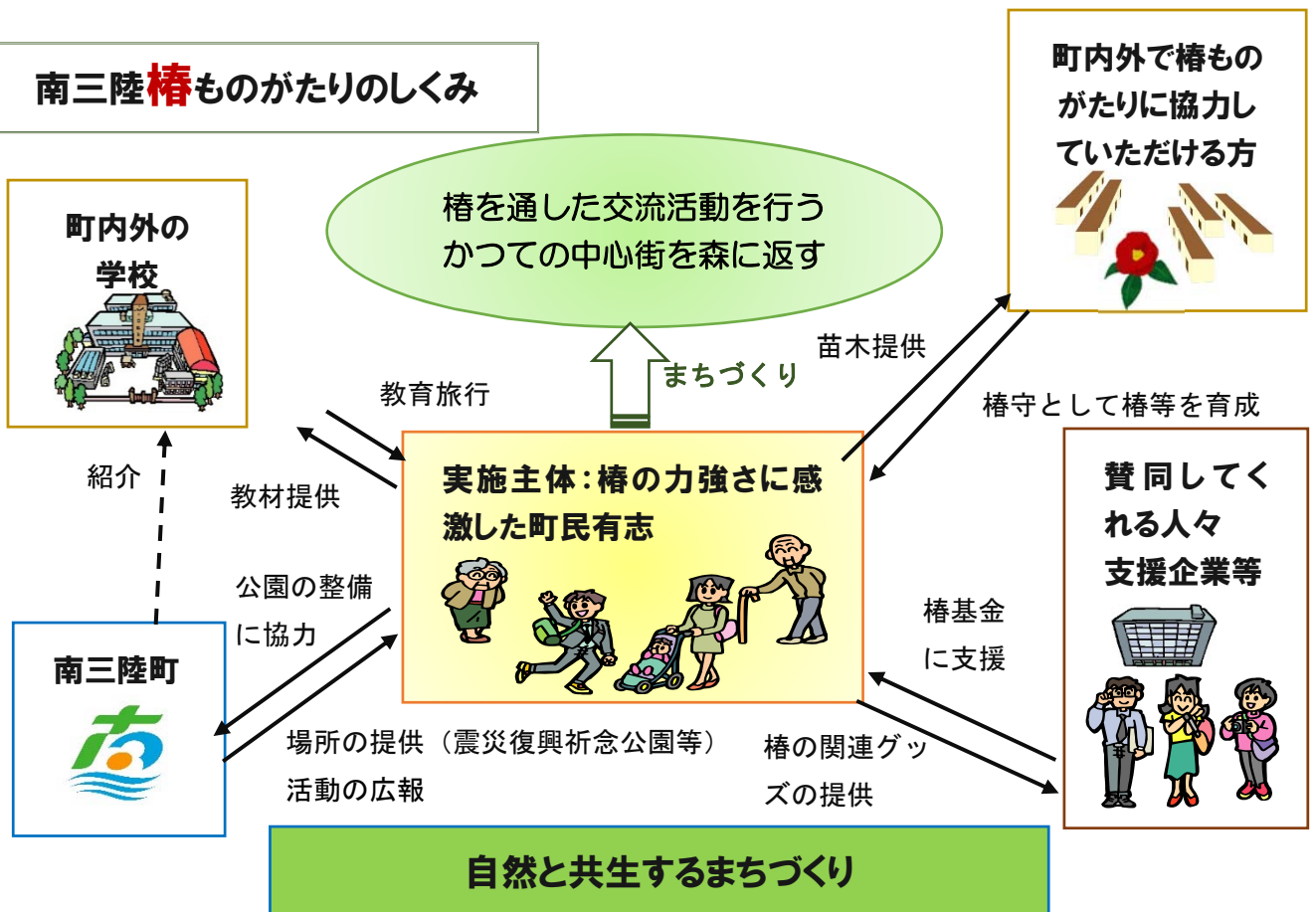
●町や町内外の団体への要望

- ・高台の住宅地、椿の避難路、町の整備する公園等へ植栽する際の調整。
- ・椿ものがたりの活動の広報。

南三陸 椿ものがたりの場



南三陸 椿ものがたりのしくみ



南三陸椿ものがたりの提言内容

事業の背景・思い		・大津波の塩害で多くの杉等が立ち枯れしたが、その中で椿はいつもと変わらず、見事な花を咲かせ、震災で絶望の中にいた人々を和ませた。 ・根っこが大事と教えてもらった。 ・鎮魂の花を真ん中に置いて町を再生したい。種から始めるまちづくり。
事業の目的	なんのために	・幸せな暮らしがあった街、多くの命が奪われた街に「椿の避難路」をつくり、震災の記憶を永遠にとどめることで、これから生まれてくる子どもたちに私たちの思いを伝えていくため。 ・椿文化を見直し発信するため。 ・産業に結びつけていくため。 ・支援者への感謝の活動として椿を活かすため。
	だれのために	・子どもたちからお年寄りのため。 (みんなが参画できるまちづくりのひとつとして)
事業の内容	だれがどこで何をどのように	・椿守さんの登録など カード発行、リストアップ、椿ポストの設置。 ・(だれが)子どもたち、大人、町外の人など多方面の人。 (どこで)学校で、有志グループで、交流イベントで(椿の名所廻りツアーなども) (何をどのように)椿のたねっこ拾い、植樹、学び、ポット苗づくり、ゆるキャラでグッズ、春の追悼、椿ながし、てんぷら、椿油(しぼりかすは肥料)など。 ・避難路に活かし目印にする。 ・全国の椿サミットや国際会議に参加し、交流のきっかけをつくる。
	概算費用	・椿の成長に合わせた取り組みを行い、人もいっしょに成長する。 ・10万円ぐらいから／年 植樹関連、椿油のしぼり代など。
結果どうなる(期待する効果)		<学び合い、交流人口の増加> ・椿の取組みを通じて、町民も主体性を持ってまちづくりに関わられるようになる。 ・椿をきっかけに全国各地の支持者とつながり、継続的な交流が深まる。 ・椿の避難路がゆっくりと形成される。 <低地部の森の再生>
自ら行う	中心となる人	・町民有志 (仮称)南三陸椿を育てる会の設立
	参加者	・子ども達からお年寄りまでそれぞれに役割を持つ
町や外の力を借りたい	町や関係組織	・小学校の教育旅行の題材として利用してほしい。 ・活動の広報。
	町内の団体等	・椿基金 ・「椿守」制度 ・わらすこ探検隊 ・苗木育成の土地 ・土地の紹介
	町外の企業等	・ゆるキャラの利用(商店街) ・町外の学校 ・椿の生態に詳しい研究者

南三陸椿ものがたりの今後の展開について

今後の展開 の方針	<初年度前半（H26.4月～9月）：活動計画の作成> ・仮称）椿を育てる会の設立と年間の活動計画を作成する。
	<初年度後半（H26.10月～H27.3月）：活動の開始> ・椿守制度の運営を開始する。 ・10月に、子どもたちやボランティアとともに、椿の種拾いを開始する。 ・椿を苗木から育成してくれる「椿守」を任命する。 ・南三陸に関係する会社、団体への支援要請を行い、寄付や南三陸椿ものがたりプロジェクトの紹介・PRをしてもらう。
	<2年目（H27）～：椿の育成・植樹の実施> ・5月に苗木を調達し、町内外で育成を開始し、成長するまでの2～3年間を一つのユニット(区切り)として事業を継続的に展開する。 ・高台の防集団地整備に合わせ、希望する自治体に椿の苗を贈り、記念樹にしてもらう。 ・町に高台団地の公園・緑地等に椿を植樹してもらう。
	<3年目（H28）～：活動の継続、椿グッズの企画の検討> ・種子からの椿づくり、苗木からの椿の育成を継続する。 ・高台の防集団地整備、避難路整備、祈念公園整備に合わせ、町内各所に南三陸椿を贈呈し植樹してもらう。 ・（継続して）町に高台団地の公園・緑地等に椿を植樹してもらう。 ・町、南三陸観光協会、南三陸町商工会や道の駅、商店街と連携して、椿関連グッズの企画を検討する。

○年次スケジュール（概略）

H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度～
・活動計画 ・会の設立 ・椿守募集 ・活動開始	・企業支援募集	（高台移転完了） ・椿の育成 ・高台団地植樹	・椿の育成 ・祈念公園や緑地で植樹 ・椿グッズ企画	・椿の育成 →継続	・椿の育成 →継続	・椿の育成 →継続

※「本当の物語」になるように、住民主体のまちづくり活動として、お年寄りから子どもたちと一緒にゆっくと、多彩な活動を継続していきたい。



みんなで健康「グラウンドゴルフ」提言書

提言の概要

●町の課題

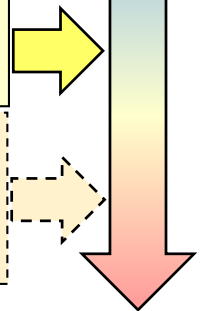
- ・仮設住宅での生活が長くなり、また、運動する施設が少なくなったことから、健康に不安を感じる住民が多くなった。
- ・仮設住宅から公営住宅、高台への移転等により、新しい地域・コミュニティの構築を図っていく必要がある。

★活用する魅力

- ・グラウンドゴルフが盛んで健康が自慢だった町。
- ・グラウンドゴルフが交流のツールとして重要な役割を果たしていた。

◆関係する動き

- ・志津川地区の市街地再整備工事が本格化し場所の確保が難しい。
- ・グラウンドゴルフができた上の山緑地も工事による迂回で使えない。



●提案の背景・思い

- ・仮設で暮らしている方々が簡単に参加できるグラウンドゴルフで、健康を維持してもらいたい。
- ・グラウンドゴルフを通して、交流やコミュニティづくりを行っていく必要がある。

●提案（活動）の目的

- ・グラウンドゴルフを通して、仮設住宅等で暮らしている方々の健康づくりをするため。
- ・グラウンドゴルフを通して、交流の促進やコミュニティの形成を図るため。

●提案（活動）の概要

- ・志津川地区、戸倉地区、歌津地区に全体の練習場所を確保し、住民自らが運営する。
- ・仮設住宅の集約等に合わせて、各仮設で練習場所を確保してほしい。
(高齢者が歩いて練習できる場所をつくってほしい。)
- ・町民が主体となり、グラウンドゴルフ大会を主催し、交流やコミュニティの形成を行っていききたい。
- ・町大会ができれば、県大会等大きな大会開催のステージ（段階）を目指す

●活動の中心となる人・団体

- ・グラウンドゴルフ愛好者、町のグラウンドゴルフ協会。
- ・仮設住宅の人。

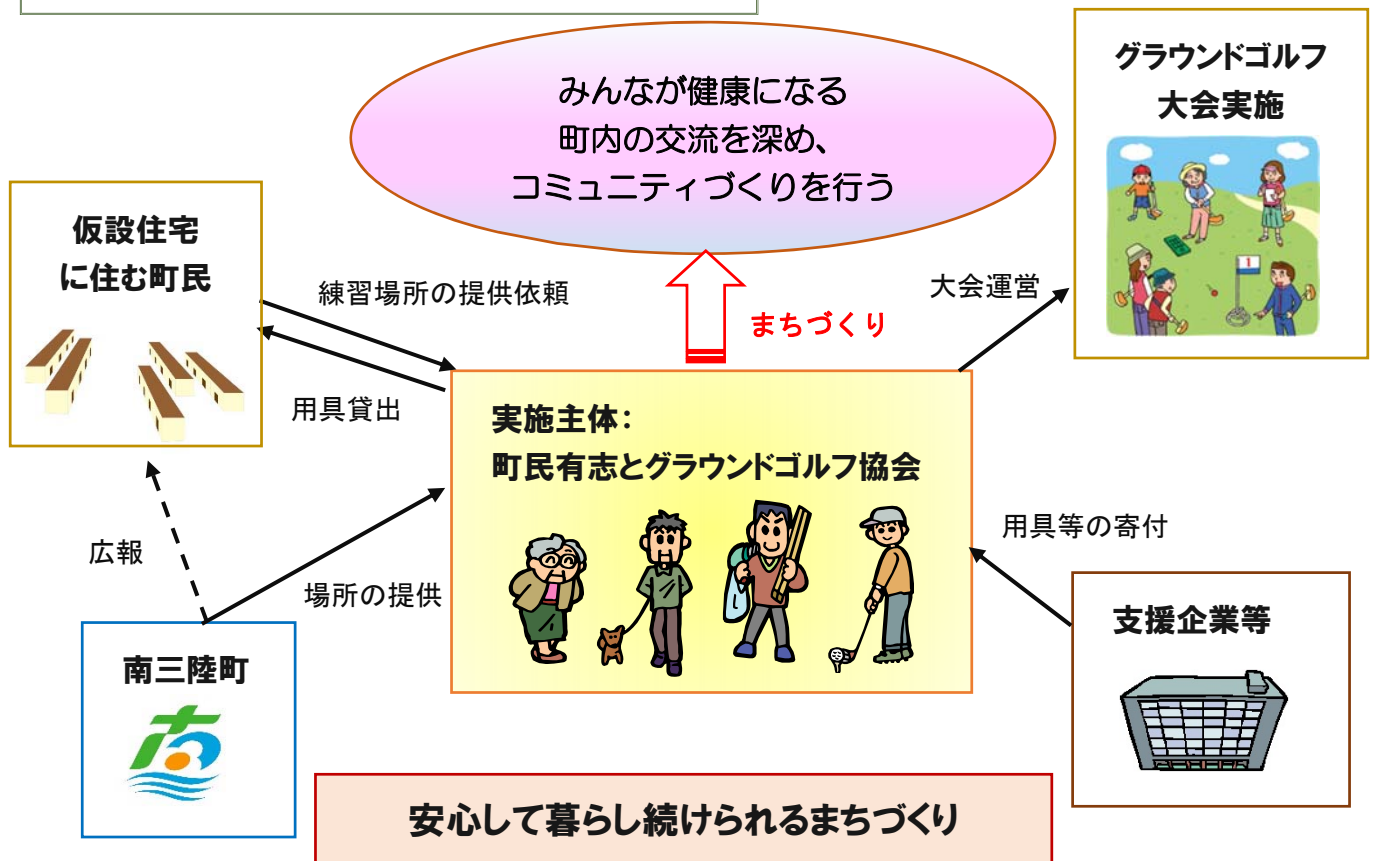
●町や町内外の団体への要望

- ・志津川地区・歌津地区・戸倉地区のグラウンドゴルフ練習場所の確保を要望する。
- ・町全体で大会ができる場所の確保とその際の移動手段の確保を要望する。
- ・仮設住宅を集約化する際に、空いたスペースに練習場所の確保をお願いしたい。

みんなで健康グラウンドゴルフの場



みんなで健康グラウンドゴルフのしくみ



みんなで健康グラウンドゴルフの内容

事業の背景・思い		・今までの愛好家がG Gをやれる機会が必要 ・住民交流の場、住民が元気になれる様にする ・住民の交流を直接的にはかる方法として一番良い (まず遊びから)(頭をからにする) ・震災前に盛んだったG Gをやる事で、かつてのにぎわいを思い出させる
事業の目的	なんのために	・グラウンドゴルフを通して健康づくり、交流の場づくりを行う。 →将来は総合イベントに拡大する。 ・スポーツが盛んだった南三陸を取り戻す。
	だれのために	・スポーツを愛し健康でいたい町民みんなのため。
事業の内容	だれがどこで何をどのように	・町のグラウンドゴルフ協会が軸となって推進する。 ・50m×30mのコースが確保できれば標準コースが出来る。 ・仮設住宅毎にショートホールを作って練習する。 波及させるためには専用のコースを確保していきたい。 ・住民の住まいの近くに練習場があるのが望ましい。(日々の練習場所) さんさんの駐車場など多機能利用出来る様に整備する。 ・泊浜半島にある既施設を借りる。(道具なども無料貸出) 恒久的施設としてできる松原公園や八幡川右岸などで行う。
	概算費用	・道具1セット：5万円程度(スポーツ用品メーカーからの寄贈希望) ・イメージアップ経費：住民交流活動、大会や試合、保険費用等に充当する。
	いつから	・H26年4月～ 小さな場所で練習を始め、大会を開く。
	結果どうなる	・町民の健康増進、交流の活性化。
事業実施上の課題は？		・場所の確保とその選定。(標準8ホール(50m×30m)×2面) ・運営資金の課題：スポンサーに賞品を提供してもらう ・スコアをつける人の育成。 ・試合の課題：協会の人HC(ハンディキャップ)をどうするか。
自らが 行う	中心となる人	・推進会議のメンバー ・G G (グラウンドゴルフ) 協会
	参加者	・仮設住宅の住民を中心とした方々
町や外の力を 借りたいこと	町や関係組織	・町(志津川・歌津・戸倉)の練習場所、町全体の練習場所の確保と無償提供。 ・大会をするときの移動手段の確保。
	町内団体等	・工事担当JVに暫定コースの貸与、復興の協力。
	町外企業等	・スポーツ用品メーカーなどの支援・協力。

みんなで健康グラウンドゴルフの今後の展開

今後の展開 の方針	＜初年度前半（H26.4月～9月）：活動計画の作成と活動の開始＞ ・町民有志とグラウンドゴルフ協会からなる発起人が活動計画や規約を作成する。 ・仮称）みんなで健康グラウンドゴルフの会を立ち上げる。 ・志津川・歌津・戸倉地区での仮設練習場の場所を確保し活動を開始する。
	＜初年度後半（H26.10月～H27.3月）：活動の実施＞ ・練習場の運営・管理を継続する。 ・仮設住宅での練習へ用具の貸与など支援を行う。 ・仮称）南三陸町復興祈念グラウンドゴルフ大会を開催する。
	＜2年目（H27）～：活動の継続＞ ・練習場の運営・管理を継続する。 ・仮設住宅での練習へ用具の貸与など支援を行う。 ・仮称）南三陸町復興祈念グラウンドゴルフ大会を開催する。
	＜3年目（H28）～：本設のグラウンドゴルフ場整備後の活動の継続＞ （本設のグラウンドゴルフ練習場の整備後） ・練習場の運営・管理を継続する。 ・仮称）南三陸町復興祈念グラウンドゴルフ大会を開催する。 →県大会や全国大会、アジア大会、世界大会へ発展させる。

○年次スケジュール（概略）

H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度～
・計画作成 ・活動開始 ・練習場運営・管理 ・大会開催	・活動継続 ・練習場運営・管理 ・大会開催	→継続実施 →全国大会実施	（グラウンドゴルフ場の整備） →継続実施	→継続実施 →アジア大会実施（目標）	→継続実施	（東京オリンピック開催） →継続実施 →世界大会実施（目標）

☀ 南三陸鮭的人材育成提言書

提言の概要

●町の課題

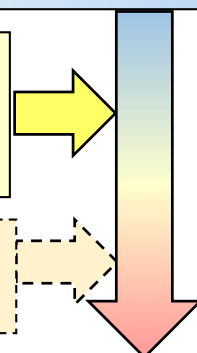
- ・町外での仮設住宅の生活が長くなり、南三陸町の良さを知らずに育つ子どもたちが多くなっている。
- ・復興の途上で、生活に不便を感じている町民が多く、町の魅力が十分に感じられないため、人口流出が続いている。

★活用する魅力

- ・八幡川、水尻川、伊里前川、水戸辺川に戻って命をつないでいく鮭。
- ・冬の海と川を登る鮭の姿。(南三陸町原風景)

◆関係する動き

- ・河川下流の堤防のほとんどがコンクリート張りになる予定である。



●提案の背景・思い

- ・ふるさとに帰ってくる鮭のように、また帰って来たくなる町にしたい。
- ・大津波でたくさん流されてしまった、ふるさと南三陸町のニオイ（生活、文化、情緒、人情、なりわい）を子どもたちに伝えていきたい。

●提案（活動）の目的

- ・ふるさとに帰ってくる鮭のイメージを様々な事業で生かし、震災後にやむを得ず、町を出られた方が、また住みたいと思えるような事業を行うことで、人口流失を防いでいく。
- ・鮭にちなんだイベントを実施し、南三陸町に来てもらえる機会を増やしていきたい。
- ・鮭の命を通して、子どもたちに命の大切さを学んでもらうため。

●提案（活動）の概要

- ・鮭にちなんだイベントを実施（鮭マラソン(森→海→森へ)、鮭といくらの親子教室、鮭とぼづくりPJ、咲け、鮭まつり、鮭のうた、鮭の絵コンテスト、鮭男(福男)、いくらちゃんの大冒険、鮭すごろく大会、鮭ずもう大会、いくらちゃんを探せ！、鮭先生の登録制度)
- ・町内外の人が楽しく参加できる河川清掃を実施する。
- ・鮭と南三陸町の海森里川についての学びを小中学校の教育旅行等に取り入れてもらう。

●活動の中心となる人・団体

- ・かもめの虹色会議。(河川を中心にまちづくりを考えている町民有志)
- ・活動に賛同する町内外の人、これまで震災復興のために町に来られたボランティアの人。

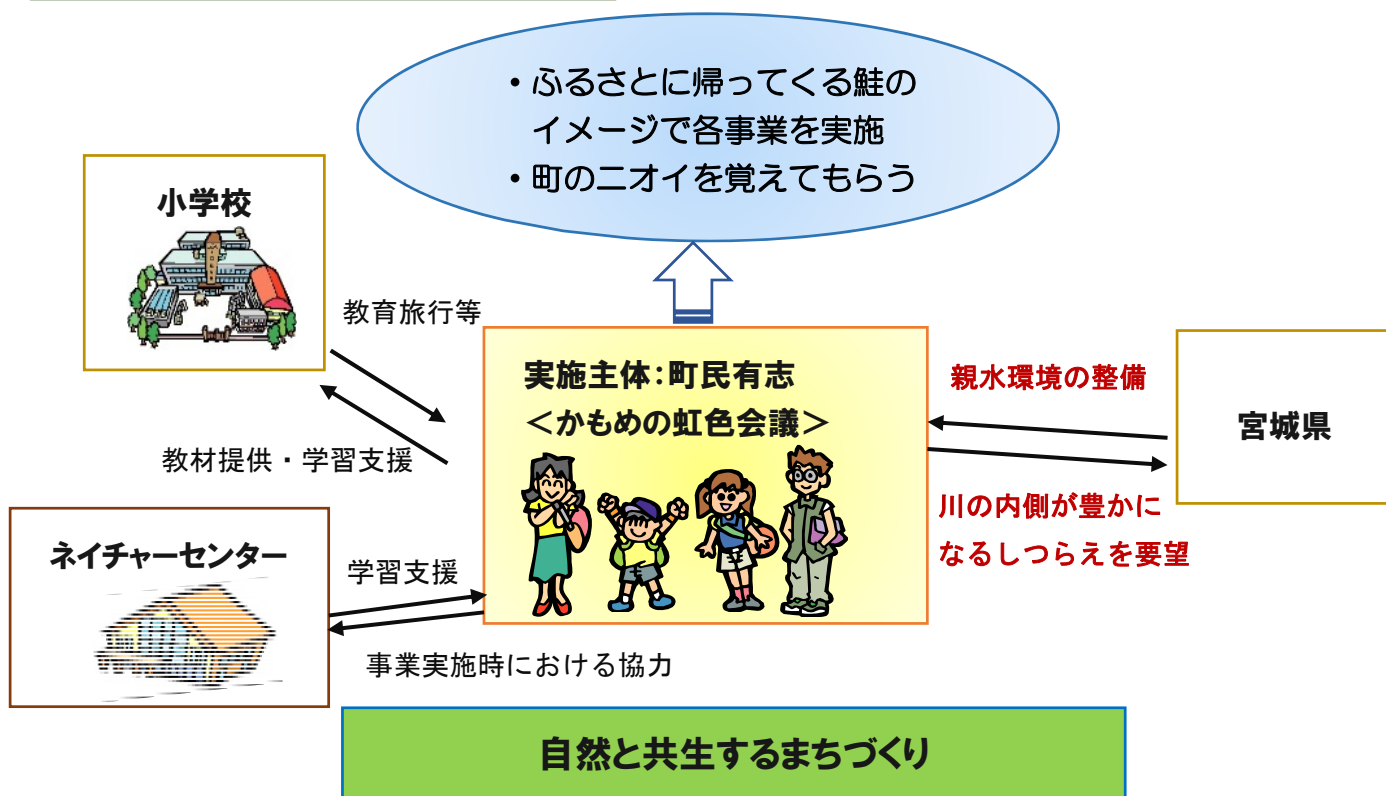
●町や町内外の団体への要望

- ・新たに建設されるネイチャーセンターに、鮭や環境の専門知識を教えてもらいたい。
- ・鮭がのぼる川にふさわしい空間とするため、(魚が住んで人が川とその生き物に触れ合える)内側が豊かな川にしてもらいたい。また、川の上流は、親水性を十分に持たせ、鮭がのぼる川としてふさわしい空間になるように整備してもらいたい。(要望)

南三陸鮭的人材育成の場



南三陸鮭的人材育成のしくみ



南三陸鮭的人材育成の企画内容

事業の背景・思い		・町の再整備をする中で、子どもたちが南三陸町の原体験ができないため、町の良さを体験する機会をつくり、ふるさとに帰ってくる鮭のように、また帰って来なくなる町にしたい。 ・大津波でたくさん流されてしまった、ふるさと南三陸町のニオイ（生活、文化、情緒、人情、なりわい）を子どもたちに伝えていきたい。
事業の目的	なんのために	＜人材育成。鮭のように逞しい人間を育てる取り組みのため＞ 南三陸町の原体験ができない子どもたちは、南三陸のニオイ（生活、文化、情緒、人情、なりわい）を覚えていない。南三陸に戻りたくなるように、遊びやイベントを通して、イクラ（子どもたち）を南三陸に戻るサケ（大人）に育んでいく。 ・鮭の生態を通して故郷を知る。 ・また住みたくなる町をつくる。 ・この町ならではの発想で川の環境を意識することで水産業向上にもつなげる。 ・持続可能な社会づくりの取り組みや人口流出に立ち向かう新しい視点から。
	だれのために	・仮設住宅で暮らしている子どもたちから大人まで。（町内外） ・南三陸町の復興を願っている方。（町内外）
事業の内容	だれがどこで何をどのように	・学校教育の授業の中で、または、地域活動の中で取り組む。 ・鮭がよるこぶシリーズ(森づくり、川づくり)と河川管理活動を行う。 ・鮭マラソン(森→海→森へ) ・鮭といくらの親子教室 ・鮭とぼづくりPJ ・咲け！鮭まつり ・鮭の絵コンテスト ・鮭男(福男) ・いくらちゃんの大冒険 ・鮭すごろく大会 ・いくらちゃんを探せ！ ・鮭先生の登録制度
結果どうなる（期待する効果）		・みんなの川として、河川管理に主体性がうまれる。 ・いのちのつながりを守る。 ・鮭をイメージしたイベントの実施により、町の魅力を取り戻すことで「また住みたい また来たい」まちづくりを行い、人口流出を止めていきたい。 ・町の魅力を人に伝えることができる。 ・食育！につながる。
事業実施上の課題		・継続してゆけるか。／・どう拡げてゆけるか。／・ネットワークづくり。
自ら行う	中心となる人	・町民有志(かもめの虹色会議)
	参加者	・町民有志、友の会など
町や外の力を借りたい	町や関係組織	・新たに建設されるネイチャーセンターに、鮭や環境の専門知識を教えてもらいたい。 ・鮭がのぼる川にふさわしい空間とするため、内側が豊かな川にしてもらいたい。また、川の上流は、親水性を十分に持たせ、鮭がのぼる川としてふさわしい空間になるように整備してもらいたい。（要望）
	町内の団体等	・小学校(中学校)、ネイチャーセンター 友の会 ・観光 南三陸町観光協会や教育旅行関係者 ・産業 淡水漁業協同組合や宮城県漁協、魚屋さん

南三陸^鮭的人材育成の今後の展開

今後の展開 の方針	<初年度前半（H26.4月～9月）：活動計画の作成と活動の開始> ・カモメの虹色会議が母体となり、活動計画を作成する。 ・ネイチャーセンターとの連携について打合せを行う。 ・河川への親水空間設置の要望を町から県にあげてもらう。（維持管理は地元で行う。） ・堤防の施工時には、川の生物が生存できるような工事上の工夫をしていただきたい。
	<初年度後半（H26.10月～H27.3月）：活動の実施> ・秋に「鮭と河川観察会と清掃イベント」を実施する。 ・総合学習や教育旅行の受け入れについて調整を行う。
	<2年目（H27）～：活動の継続> ・春と秋の「鮭と河川観察会と清掃イベント」を継続して実施する。 ・ネイチャーセンターと連携して活動を実施する。 ・総合学習や教育旅行を受け入れる。
	<3年目（H28）～：河川整備後の活動の継続> （河川整備後） ・河川上流や中流、下流の親水護岸で河川観察会と清掃イベントを継続する。 ・ネイチャーセンターと連携して活動を実施する。 ・総合学習や教育旅行を受け入れる。

○年次スケジュール（概略）

H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度～
・計画作成 ・活動開始（河川観察・清掃） ・活動開始	・春秋の河川観察会・清掃活動 ・ネイチャーセンターと連携 ・総合学習や教育旅行の受け入れ	（河川整備） →継続	→継続	→継続	→継続	→継続

南三陸「復興中もスポーツ」要望書

要望の概要

●町の課題

- ・仮設住宅での生活が長くなっており、健康を害している人も多いので、その対策に今すぐ取り組む必要がある。
- ・だれもが住み慣れた地域の中で、心豊かな暮らしを続けるための健康維持・増進活動を支援する必要がある。

★活用する魅力

- ・子供からお年寄りが一緒にスポーツ・交流する南三陸の良い文化。
- ・山・川・海・里山が身近にあり、ちょうど良いサイズ。

◆関係する動き

- ・松原総合運動公園は復旧する。
(ただし使えるのは、後3年後(平成29年度)になる見込み)
- ・平成の森も高台住宅への移転完了後にすべての運動施設が使える。

●要望の背景・思い

- ・運動不足や引きこもりがちを感じる町民が多いので、復興中でも我慢することなく、空いているスペースを使って、健康で前向きな気持ちで生活をしてもらえるようにしていきたい。(切実な願い)
- ・スポーツ施設が本格復旧する前から、運動ができる場を確保していきたい。

●要望の趣旨

- ・南三陸町民の健康増進を図るため。
- ・スポーツを通じ町民の交流を促進し、高台移転後に繋がるコミュニティをつくるため。
- ・町外との交流を盛んにするため。

●提案(活動)の概要

- ・仮設スポーツ広場の運営、高台団地の行政区対抗町内大運動会の開催を行う。
- ・ハイキングコース・マップ作りを行う。

●活動を予定する人・団体

- ・町内の体育協会。
- ・町民有志。

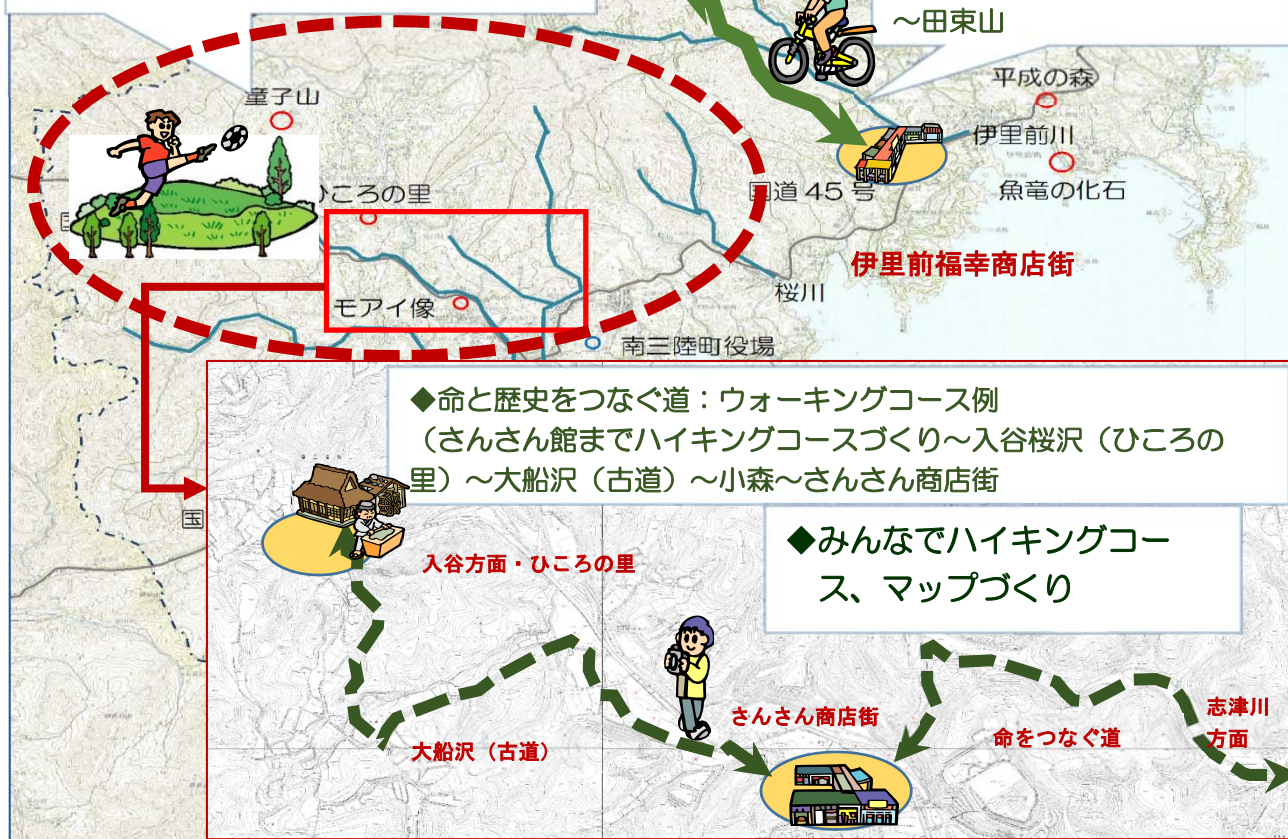
●町への要望の概要

- ・松原公園や平成の森が復旧する間も利用できる仮設運動場・広場の確保を要望する。
(フットサルやイベントができる大きさ、ベイサイドアリーナのアウトドア版)
- ・高台団地のコミュニティの育成を図るため、町主催の町民運動会の開催をお願いする。
- ・町内外での交流を図るためのサイクリング大会(ツールド南三陸)、ウォーキング大会の実施への協力をお願いする。

南三陸復興中もスポーツの場

◆復興工事中の仮設スポーツ広場
(町内外で確保を要望)

◆ツールド南三陸ルート例
福幸商店街前～伊里前川沿い
～田束山



◆命と歴史をつなぐ道：ウォーキングコース例
(さんさん館までハイキングコースづくり～入谷桜沢(ひころの里)～大船沢(古道)～小森～さんさん商店街)

◆みんなでハイキングコース、マップづくり

南三陸復興中もスポーツの要望内容



みんなが健康になる
町外から人が来て賑わう

まちづくり
検討

実施主体：町民有志
と各体育協会構成員



要望

復興工事中の仮設
スポーツ広場を要望



ツールド南三陸
ウォーキング大会



おいしい南三陸の食を提供

民宿、旅館、農漁家レストラン直売所

安心して暮らし続けられるまちづくり

南三陸復興中もスポーツの内容

事業の背景・思い		・生活不活発病など町民が運動不足や引きこもりがちと感じるので、復興工事中の今も空いているスペースを作って健康で前向き気持ちで生活をしたい。 ・復興工事中もスポーツ・交流・体験の場を確保し、高台に移転しても良いコミュニティをつくりたい。(切実な願い) ・ベイサイドアリーナのアウトドア版がほしい。
事業の目的	なんのために	・町民みんなの健康増進のため。 ・町外から人を呼ぶため。(スポーツツーリズムの振興)
	だれのために	・町民全体のため。 ・南三陸を訪問してくれる人たちのため。
事業の内容	だれがどこで何をどのように	・体力に応じてサイクリングやランニングトラックとここを起点とした町内のサイクリングコースやランニングコースの確保。(たとえば田東山まで) ・体験学習スペースやバーベキューや芋煮ができる場所も確保。 ・フットサルができる芝生広場の確保。 ・グラウンドゴルフやストリートバスケットの場の確保。 ・南三陸の地形、古道を活かし、震災時に命をつないだ道を歩く。
	概算費用	・町民無料、町外に住む人は有料とする。 ・町民自身で維持管理しながらできるだけ費用を抑える。
	いつから	・できるだけ早くから取り組む。
結果どうなる(期待する効果)		・町民の健康づくりにつながる。 ・みんなが集まる、楽しめる。 ・町外の人々が来られる場ができる。
事業実施上の課題は？		・場所がない。 ・暫定的なスペースの確保。 ・指定管理(行政)
自らが行うこと	中心となる人	・町民有志 ・体育協会
	参加者	・スポーツを愛する町民 ・スポーツを愛する来訪者等
町や外の力を借りたいこと	町や関係組織	・平成の森や松原運動公園が復旧するまでの間の仮設スポーツ広場(フットサルやイベントができる)場所の確保を要望する。 ・指定管理者制度の活用。
	町内の団体等	・民宿、ホテル・旅館 ・農漁家レストラン、直売所
	町外の企業等	(スポンサー企業)

南三陸復興中也スポーツの今後の展開

今後の展開 の方針	<初年度前半（H26.4月～9月）：健康状況の把握> ・町による仮設住宅に住まわれている方の健康状況を把握する。
	<初年度後半（H26.10月～H27.3月）：検討> ・健康維持のための具体策の検討を行う。
	<2年目（H27）～：活動の開始> ・練習場の運営・管理を行う。 ・町の新たなハイキングコース、サイクリングコースづくりを行う。 ・健康維持のための事業を実施する。
	<3年目（H28）～：本設の総合運動場整備後の活動の継続> （本設の総合運動場の整備後） ・仮称）行政区対抗町内大運動会を開催する。 ・活動母体、新たなコミュニティを継続・発展させ、スポーツで健康となり、交流の盛んな町を実現する。

○年次スケジュール（概略）

H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度～
・健康状況の把握 ・健康維持のための具体策の検討	・練習場の運営・管理 ・ハイキングコースづくり ・健康維持のための事業の実施	→継続実施	（松原総合運動公園の整備） →行政区対抗町内大運動会の開催	→継続実施	→継続実施	（東京オリンピック開催） →継続実施